

日语专业系列教材

かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
らりるれろ
わいうえを
ん

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
なにぬねの
まみむめも
らりるれろ
わいうえを
ん

日语语音学 教程

刘佳琦◎编著

あ 日语专业系列教材

かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やえよ
らりるれろ
わいう
ん
わいうえを
ん

あいうえお
きくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
まみむめも
やえよ
らりるれろ

日语语音学 教程

刘佳琦◎编著

图书在版编目 (CIP) 数据

日语语音学教程/刘佳琦编著. —上海:华东师范大学出版社,2013.2
ISBN 978-7-5675-0356-4

I. ①日… II. ①刘… III. ①日语—语音学—教材
IV. ①H361

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2013)第 039136 号

日语语音学教程

编 著 刘佳琦
责任编辑 孔 凡
装帧设计 卢晓红

出版发行 华东师范大学出版社
社 址 上海市中山北路 3663 号 邮编 200062
网 址 www.ecnupress.com.cn
电 话 021-60821666 行政传真 021-62572105
客服电话 021-62865537 门市(邮购)电话 021-62869887
地 址 上海市中山北路 3663 号华东师范大学校内先锋路口
网 店 <http://hdsdcbs.tmall.com/>

印 刷 者 苏州工业园区美柯乐制版印务有限公司
开 本 787×1092 16 开
印 张 9.5
字 数 198 千字
版 次 2013 年 12 月第一版
印 次 2013 年 12 月第一次
书 号 ISBN 978-7-5675-0356-4/H·617
定 价 30.00 元(含盘)

出 版 人 朱杰人

(如发现本版图书有印订质量问题,请寄回本社客服中心调换或电话 021-62865537 联系)

前 言

近年来,随着中国日语教育事业的蓬勃发展,许多高校都开设了日语专业,致力于培养高端的日语人才。与此同时,外语教育也正受到国外先进语言理念思潮的影响,从当初结构主义语言学发展到以功能主义语言学为基础的沟通能力训练,当下外语教学中的“听”和“说”成为了沟通能力训练的重点。作者认为所谓“沟通能力”可以理解为,听清并理解对方的话语,并能顺利表达自己的意思和情感,从而圆满完成沟通任务的能力。在沟通活动中,“发音”扮演着不可忽视的重要角色。近年来国内高校日语专业也开始重视高端日语人才的语音教学,陆续在本科教学中开设“日语语音学”课程。但由于语音学专业师资缺乏,以及语音专业教材的不足,“日语语音学”教程的开设和开展也遇到了瓶颈。本书的研发和出版正是为了弥补“日语语音学”教材的不足,希望通过本书能够帮助更多的日语学习爱好者,在了解学习语音学理论知识的同时练习发音,以提高发音水平,真正增强沟通能力。

有的日语学习者认为,“发音没有必要学,只要多听多说,自然就会变好”。这样的说法并不准确,通过学习系统的语音理论知识来提高正确的发音意识是非常重要的。有研究证明,与未成年人相比,成年人学习外语比较容易留下口音,在学习和教学中导入语音理论知识,并配合实践练习将大大提高学习效率。因此学习日语语音学的基础理论知识将帮助我们提高正确的发音意识,理性地分析自己和他人的发音并及时加以纠正。

作者曾求学日本早稻田大学,主攻日语语音习得和教学研究,回国后在复旦大学从事日语教学工作。复旦大学日语语言文学系自2010年针对二年级本科生新开设“日语语音学”课程至今,一直使用本书的试用版。作者采集了参加本课程学生的意见和建议,历时三年多不断进行添加和修改,以保证本书的理论先进性,例子的代表性和新鲜性,练习的多样性和有效性。

最后,真诚感谢复旦大学的师生给予的勉励与建议,北京师范大学外文学院翟东娜教授、以及复旦大学外国专家重泽伦子老师的认真校稿,同济大学外国专家岛田由利子老师为本书录音,华东师范大学出版社孔凡老师的热情帮助。本书的顺利出版,离不开他们的大力支持和细致有序的工作。由于作者的水平有限,疏漏不妥之处恳请细心的读者随时指正,以便再版时修正。

作 者

2013年11月于复旦大学

关于本书

一、本书的特色

(一) 本书实现了日语语音学理论与实践相结合。书中不仅有对语音学基础理论、发音规则的详细介绍,并设计了相关的发音练习环节,使学习者明确日语语音学习的重点。

(二) 本书在日语语音学得研究成果的基础上,提出了针对中国人日语学习者的教学方案、学习方法。比如有声无声破裂音的听辨和发音问题、复合词的声调过度起伏问题等等,并提出了有效的建议和练习方法。

(三) 本书采用了与国际接轨的新型教学方法,使发音教学走出枯燥乏味的传统模式。以往的发音教学法比较单一:教师提供模范发音,让学习者反复重复。本书中引入最新的多元教学模式,比如通过肢体运动练习发音的 VT 法、发音辅助符号标注、同伴合作学习(Peer Instruction)、分组互相学习评价等,使课堂教学手段更加多样化,提高学习者的学习兴趣。

(四) 本书导入发音可视化的新概念,使语音学习不再停留在听和说,学习者能通过视觉信息,更客观地评价自己以及同伴的发音。在本书的第四章(日语的声调)中,通过对语音分析曲线图的展示对比,形象地介绍日语声调的类型以及高低变化走势,并在卷末附录中介绍了语音分析软件 Praat 的使用方法。

二、本书的定位

(一) 本书适合高等院校日语专业学生使用。本书的编排以及内容设置适合用于日语专业本专科生和研究生的语音知识学习。

(二) 本书适合具有中高级日语水平的读者阅读。读者对象需经过一年以上的日语学习,对词汇和语法、句型有一定的积累,基本达到日语能力测试 N2 水平。

(三) 本书同时适合于对日语语音学研究有兴趣的学习者和研究者。书中阐述的语音学理论有助于读者建立良好的语音学研究基础。

三、本书的构成

本书配有录音 CD 和教学课件。下面对教科书、录音 CD、教学课件进行说明。

(一) 本教科书一共分为 6 章, 分别是:

第 1 章 日语的音(介绍元音, 辅音特征。特别介绍和练习一些学习困难的音)

第 2 章 日语的节奏(介绍节拍特征。特别介绍和练习促音等特殊拍)

第 3 章 日语口语的语音特征(介绍口语的语音变化, 并通过口语会话练习发音)

第 4 章 日语的声调(介绍声调的基本概念及名词、形容词、动词的声调, 并练习发音)

第 5 章 日语外来语的语音特征(介绍外来语的元音、节拍、声调的特征, 并练习发音)

第 6 章 日语的语调(介绍句中、句末语调, 强调与停顿, 并练习发音)

(二) 录音 CD 的内容贯彻整本书, 包括课文中的例词、例句、练习、专栏、小游戏。有 CD 语音内容的地方, 会有类似于(CD-2-08)的标记。配套 CD 的语音提供者曾从事日本的电视台演播工作, 日语普通话标准, 可以作为广大学习者和教学者的模仿学习对象。

(三) 本书的配套课件的内容适合教师在课堂上与教材一起使用, 以方便教学。自学者也可以通过课件中的语音播放系统, 直接听配套 CD 中的录音内容, 以方便学习。

四、章节的构成

每章的基本构成为【学习目标】【课文】【练习】【专栏】【小游戏】。

【学习目标】 概括本章的学习要求和目标。

【课文】 介绍本章节课文的内容重点, 并举例详细说明。




【练习】 针对本章节的内容重点, 设计形式丰富的练习。

【专栏】 介绍本章节课文内容的延伸信息。

【小游戏】 针对本章课文内容, 进行适合课堂教学的游戏。

五、书中的符号

为了方便学习, 本书中使用了一些符号。在此对其进行归纳说明。

1.  和 : 出现在第 2 章(日语的节奏), 表示节拍长短。
2. ː: 出现在第 4 章(日语的声调), 表示声调, 是国际音标声调符号。
3. : 出现在第 6 章(日语的语调), 表示句中语调高低。
4. ● 和 ●●: 出现在第 6 章, 表示句中停顿时间长短。
5. ˆ、˘ 和 →: 出现在第 6 章, 表示句末语调升降。

使用说明

一、致教学者

为了顺利圆满地完成语音学课程的教学任务,帮助学习者更好地掌握日语发音,作者对使用本书时的课堂教学提出以下六点建议。

1. 由于每章节内容量不同,教师可按照实际课程时间和内容来安排课程进度。按照每周一次课堂教学来计算,上完整个课程大致需要半年的时间。

2. 本书教学内容由浅至深,单音—节奏—声调—语调,因此建议按照本书的编排顺序进行授课。但也可根据学生的能力水平和实际语音问题,挑选章节单独教学。

3. 本书中设置了许多互动环节。比如课文中的【考えてみよう】是作为进入正课前的热身活动,【ゲーム】则能够轻松有效地巩固学习内容。

4. 本书【练习】中明示了可行的练习方法,特别是成对成组同伴合作练习,可以有效提高课堂互动气氛,使学生有机会关注并纠正自己和同伴的发音,形成互帮互学的良好课堂环境。

5. 建议教师使用配套的教学课件,一方面可以减轻备课负担,一方面可以利用语音播放系统,以便即时进行语音听辨或发音练习。

6. 本书中特别提到语音的可视化,并在附录1中详细叙述了语音分析软件 Praat 的操作方法。建议教学者进行课堂演示,并要求学习者实际操作。通过视觉比较语音信息,提高学生的学习兴趣 and 自觉性。

二、致学习者

为了提高学习者的语音学习效果,帮助学习者更好地掌握日语发音,作者对学习者在使本书时提出以下六点建议。

1. 由于每章节内容量不同,学习者可按照实际内容来安排学习进度。按照每周学习一次来计算,学完整本书大致需要半年的时间。

2. 本书内容由浅至深,单音—节奏—声调—语调,因此建议按照本书的编排顺序进行学习。但也可根据学习者的日语能力水平和实际发音问题,挑选章节单独学习。

3. 建议学习者利用配套课件的语音播放系统,以便即时进行语音听辨或发音练习。
4. 配套 CD 中收录了课文中的例词、例句以及练习内容。建议学习者将录音内容放入 MP3 等随身携带式播放器,以便随时练习听力和发音,巩固学习成果。
5. 建议学习者使用录音器材录下自己的发音,以便发现自身的发音问题,及时改正。
6. 本书中特别提到语音的可视化,并在附录 1 中详细叙述了语音分析软件 Praat 的操作方法。建议学习者根据介绍实际操作,通过视觉比较语音信息,提高学习兴趣和自觉性。

目次

第1章 日本語の音

第1節 日本語の母音 / 2

- 一、母音の「あ、い、う、え、お」 / 2
- 二、母音無声化 / 4
- 三、半母音 / 6
- 四、母音の交替 / 6

【コラム 中国語の二重母音と日本語の連母音】 / 7

第2節 日本語の子音 / 8

- 一、子音の分類と特徴 / 8
 - (一) 日本語の「シ」の発音 / 10
 - (二) 日本語の「フ」の発音 / 10
 - (三) 日本語の「ツ」の発音 / 12
 - (四) 日本語の「ナ行」と「ラ行」の発音 / 13
- 二、有声音と無声音 / 14
 - (一) 無声破裂音 / 15
 - (二) 有声破裂音 / 17
 - (三) 鼻濁音の発音 / 18
- 三、拗音 / 19

【コラム 擬音語と擬態語の音声特徴】 / 20

【ゲーム1 動物の声】 / 22

【ゲーム2 早口言葉】 / 22

第2章 日本語のリズム

第1節 拍 / 23

- 第2節 促音の「っ」 / 26
- 第3節 撥音の「ん」 / 28
- 第4節 長音 / 29
- 【コラム 俳句と川柳】 / 31
- 【ゲーム 自己流川柳を作ろう】 / 32
- 第5節 フット / 33
- 一、語の短縮 / 35
- 二、曜日の言い方 / 35
- 三、数字の伸長 / 37
- 【コラム 日本語の語呂合わせ】 / 38
- 【ゲーム しりとり】 / 39

第3章 日本語の話し言葉の音声特徴

- 一、グループA——話し言葉の拗音化 / 41
- 二、グループB——話し言葉の「い」の脱落 / 42
- 三、グループC——話し言葉の母音融合 / 42
- 四、グループD——話し言葉の撥音化 / 43
- 【コラム ら抜き言葉】 / 45

第4章 日本語のアクセント

- 第1節 アクセントの基本概念 / 46
- 一、日本語アクセントの特徴 / 48
- 二、日本語アクセントの表記 / 49
- 三、日本語アクセントの種類 / 50
- 四、日本語アクセントの法則 / 53
- (一) 特殊拍とアクセントとの関係 / 53
- (二) 連母音とアクセントとの関係 / 54
- (三) 母音無声化とアクセントとの関係 / 54
- 五、日本語アクセントの機能 / 54
- 六、日本語アクセントの視覚化 / 56
- 【コラム 中国語の声調と日本語のアクセント】 / 57

- 第2節 いろいろな品詞のアクセント / 58
- 一、日本語の名詞アクセント / 58
 - (一) 名詞アクセントの種類とその傾向 / 58
 - (二) 人名のアクセント / 59
 - (三) 複合名詞のアクセント / 62
 - 【コラム 名詞アクセントの平板化】 / 66
 - 二、日本語の形容詞アクセント / 67
 - (一) 形容詞のアクセント / 67
 - (二) 形容詞活用形のアクセント / 68
 - (三) 形容詞アクセントの新傾向 / 69
 - (四) 複合形容詞のアクセント / 70
 - 三、日本語の動詞アクセント / 71
 - (一) 動詞のアクセント / 71
 - (二) 動詞活用形のアクセント / 73
 - (三) 複合動詞のアクセント / 77
 - 【コラム 「かえる」はどう発音する?】 / 78
- 第3節 文中のアクセント / 79

第5章 日本語の外来語の音声特徴

- 第1節 母音の挿入 / 81
- 第2節 促音と長音の添加 / 82
- 第3節 外来語のアクセント / 83
- 第4節 外来語の表記 / 85
- 【コラム 和製カタカナ語】 / 87
 - 【ゲーム アトラクションの名前を当てよう】 / 87

第6章 日本語のイントネーション

- 第1節 アクセントとイントネーション / 88
- 第2節 文中のイントネーションの「大ヤマ」と「小階段」 / 91
- 第3節 フォーカスとイントネーション / 94
- 一、フォーカスとは / 94

- 二、助詞「は」と「が」のイントネーション / 96
- 三、疑問詞とイントネーション / 96
- 第4節 ポーズとイントネーション / 98
 - 一、ポーズとは / 98
 - 二、ポーズの機能 / 98
 - (一) ポーズは息抜きのチャンス / 99
 - (二) ポーズは考えるタイミング / 99
 - (三) ポーズは文の区切りと意味のまとまりの境界 / 100
- 第5節 文末のイントネーション / 102
 - 一、文末の上昇イントネーション / 103
 - 二、文末の非上昇イントネーション / 104
- 第6節 終助詞「よ」と「ね」のイントネーション / 106
 - 一、終助詞「よ」と「ね」の上昇イントネーション / 106
 - 二、終助詞「よ」と「ね」の非上昇イントネーション / 107
 - 【コラム 感嘆詞のイントネーション】 / 109
 - 【ゲーム サバイバル生活について語ろう】 / 110

- 付録1 音声分析ソフトPraatの使用方法 / 111
- 付録2 動詞活用形のアクセント表(3拍語) / 123
- 付録3 数詞1~100のアクセント表 / 124
- 付録4 助数詞のアクセント表 / 125

- 参考解答 / 127
- 用語索引 / 134
- 参考文献 / 137

第1章 日本語の音

学習目標

1. 母音と子音の違いを理解します。
2. 調音器官図を見て、日本語の母音と子音の調音特徴を理解します。
3. 調音器官を考えながら、日本語の母音と子音の発音を練習します。

【考えてみよう】

日本語の音は難しいですか？

あなたにとって、苦手な音はありますか？ それは何ですか？

人によって答えが異なるでしょう。しかし全体的に見れば、日本語の音は簡単だと思う人のほうが多いかもしれません。日本語は、世界の言語の中で見ると、母音の種類も、子音の種類も少ないほうです。また日本語の仮名あるいは音節は、ほとんどが「子音一つ＋母音一つ」からできているので、とても単純です。

しかし、音の数が少なくても、たとえば日本語「ラ行」音が難しい、鼻濁音が難しいなど困難を感じる人がいます。日本語のどの音が難しいかは、その人の母語または母方言によっても違います。また「全部簡単だ」と思っている人でも、実は不自然な発音をしていることに気づいていないこともあるかもしれません。

第1章では、日本語の音(子音と母音)について紹介します。

母音というのは、のど(声帯)で作られた音が、口の中で「じゃま」をきれないで外に出た音のことです。子音というのは、口の中に「じゃま」を作って出す音のことです。日本語の子音と母音のような一つ一つの音のことを単音または文節音と言います。

では、まず母音から見ていきましょう。

第1節 日本語の母音

この節では、日本語の母音の「あ、い、う、え、お」、母音無声化、半母音と母音交替について紹介します。

一、母音の「あ、い、う、え、お」

「あいうえお」は日本語の母音です。母音は口の中で「じゃま」を作らないで出す音ですが、唇や舌、口の形を変えることで、いろいろな種類の母音を作ります。それでは、唇の形、舌の前後位置、口の開きを説明しながら、日本語の母音を分類しましょう。

母音の分類基準

唇の形:	円唇	—	非円唇				
舌の前後位置:	前舌	—	中舌	—	後舌		
口の開き:	狭	—	半狭	—	半広	—	広

日本語の母音の「あ、い、う、え、お」の場合は、唇の形、舌の前後位置、口の開きはどうなっているのでしょうか。以下の図1-1を見ながら、確認しましょう。(CD-1-01)

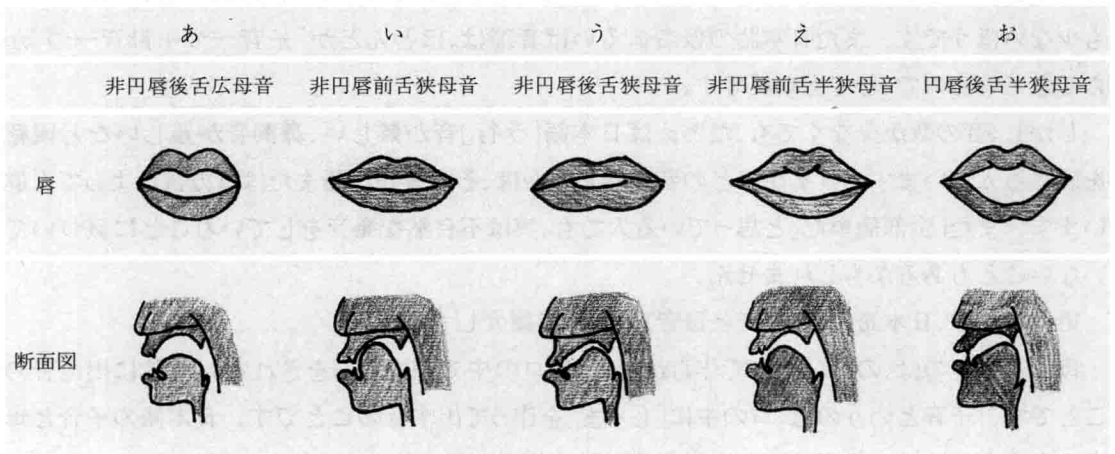


図1-1

それでは、図1-1を見ながら、母音一つ一つの発音を見ていきましょう。

あ

「ア」は、日本語の母音の中で一番口の開き大きい母音ですが、それでも口を軽く開くぐらいにします。中国語の「a」ほど口を大きく開きません。舌はどこも盛り上がらないで、力を抜いて発音します。

い

口をあまり開かないで、唇を少し横に引いて、舌を前に盛り上げて発音します。

う

口をあまり開かないで発音します。中国語の「u」と違って、唇を丸めないで発音します。また舌もあまり奥に引かないで、力を抜いて発音します(図1-2)。

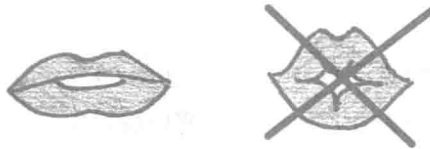


図1-2

え

「イ」よりももっと口を開いて発音します。唇を少し横に引いて、発音します。

お

「ウ」よりももっと口を開いて発音します。舌は口の奥のほうで盛り上がります。唇は軽く丸めますが、あまり強くは丸めません(図1-3)。

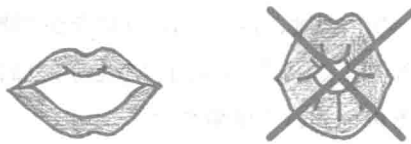


図1-3

以上の説明をまとめると、図1-4のようになります。図1-4は図1-1に示した口の開きと舌の前後位置をまとめたものです。世界の言語の母音をほぼすべて図1-4の図形に納めることができると言われています。日本語の場合は「あ、い、う、え、お」の五つに区切っているというわけです。

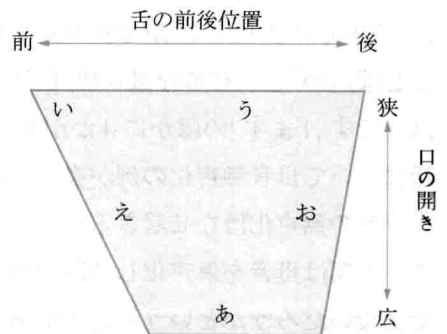


図1-4

練習

1. 次の順番で発音してみて、口の開き、唇や舌の変化を意識してみましょう。ペアになって、お互いの発音を聞いてみましょう。(CD-1-02)

- あ — い — え
- い — お — え
- お — あ — う
- う — え — あ
- え — い — お

2. 以下の単語を発音してみましょう。ペアになって、お互いの発音を聞いてみましょう。(CD-1-03)

愛(あい)	会う(あう)	上(うえ)	家(いえ)
甥(おい)	追う(おう)	青い(あおい)	言う(いう)

3. 中国語の母音はいくつありますか？それぞれの母音を発音してみてください。舌や口、唇の形はどう違いますか。日本語の母音と比べて、どれが似ていますか？どれが違いますか？

二、母音無声化

実際、日本語の単語や文を聞く時には、母音が不明瞭あるいはほとんど聞こえない時があります。たとえば、「です」「ます」の「す」は、母音の[u]の発音が明瞭ではありません。人の名字の「菊池(きくち)」の場合は、「き」も「く」も[k(i)k(u)]のように母音が発音されていないように聞こえるのです。これは母音無声化という現象です。

SMAPの草彅剛(くさなぎつよし)の「く」、中国人の苗字では、「せき(石)さん」「りく(陸)さん」の中で、「き」と「く」が母音無声化になりやすいです。名前だけではなく、「書き言葉(かきことば)」の「き」、有名な温泉地「草津(くさつ)」の「く」も無声化しやすいでしょう。語末の場合は、「です」「ます」のほかに、「かがく」の「く」の母音も無声化しやすいです。このように、実生活において母音無声化の例が多く見られます。

母音の無声化はなぜ起きるかという点、それは自然な生理現象によるものだと考えられます。人間は母音を無声化し、呼吸を節約することで、より多くの言葉を発することができるのではないだろうかという考え方があります。しかし、日本の方言によっても母音無声化現象がかなり異なることが方言研究ですでに報告されています。関西より関東のほうが無声化しや

すい傾向が観察されています。そのため、同一の単語を発音する場合でも、東京の話者では無声化し、大阪の話者では無声化しないということも珍しくないのです。

しかし、我々学習者にとって日本語母語話者と同じように自然に、流暢に日本語を話すためには、母音無声化が必要なのです。母音無声化は自然な生理現象だという観点から考えれば、母音を無声化して発音することはさほど難しいことではありません。難しいのは、聞くほうです。幸いにも、母音がどのような時に無声化しやすいかは、これまでの研究からかなりわかってきています。以下のようなふたつの原則があります。

母音無声化の原則

1. [i][u]の2母音が無声化しやすく、他の3母音は無声化しにくいです。
2. 無声子音[k,s,t,h,p]の間に挟まれる母音や、無声子音の後ろにある語末の母音が無声化しやすいです。

母音の無声化がさらに進むと、音が完全に脱落する促音化の段階に進んでいくことがあります。これは母音弱化の現象であるとも言われています。たとえば、「三角形」の場合は「さんかくけい」とも言えるし、「さんかっけい」とも言えます。ほかに、「直」という漢字は、「直接、直面、直営」の場合は「ちよく」と発音するが、「直径、直感」の場合は「ちよっ」と発音します。また、同じように「作」という漢字でも、「作品(さくひん)」の「く」は母音をしっかり発音しているが、「作成(さくせい)」という語では「く」が無声化し、さらに「作家(さっか)」という語では母音が完全に脱落して促音の「っ」になってしまいます。母音→母音無声化→促音化、このように母音の無声化や促音化は自然な発音にとって大切なものです。

また、音韻学では、母音無声化現象は単語のアクセントにも影響すると言われています。詳しくは【第4章第1節アクセントの基本概念】を参照されたいです。

練習

1. 次の音を、下線の部分に気をつけて聞いてください。音はどのように違いましたか。

(CD-1-04)

- くき(茎) — くぎ(釘)
- すき(好き) — すぎ(杉)
- ふく(服) — ふぐ(河豚)
- えきから(駅から) — えきまで(駅まで)